



# かけはし

「ひとつひろえば ひとつだけきれいになる」  
～ 児童の感性を育てる ～



校長 藤谷 真一

マフラーや手袋を付けて登校する児童が多くなってきました。ついこの間まで、熱中症を気にしながら過ごしていたことが嘘のようです。ご家庭での健康管理のお陰で、感染症による欠席者も一時期に比べてずいぶん落ち着いてきています。ありがとうございます。

先月の個人面談では、お忙しい中、貴重なお時間をいただきありがとうございました。担任等にお話いただいた内容については、学校全体で共有し、今後の子供たちへの支援、成長に生かして参ります。また、引き続き、何か気になることがありましたら、いつでもご連絡、ご来校ください。「学校の敷居はエベレストより高い」というのは、ひと昔前の話です。今、重要なことは、学校と保護者、地域、関係各所が一人一人の子供の抱えているものを把握し、みんなで一緒に考えていくことです。どうか、学校に対する「思い・疑問・不安」がありましたら、小さなうちにお伝えください。

株式会社ローヤルの創業者、鍵山秀三郎氏の言葉の中に「ひとつひろえば ひとつだけきれいになる」という私の好きな言葉があります。4月から休み時間、校庭の石や木の枝、ゴミ等を拾い集めることが日課になっています。もちろん、子供たちの安全面を考慮してのことです。はじめは私一人でしたが、「校長先生、何してるの。」と不思議そうに数人集まってきて、「ぼくもやりたい。」「これで、転んでもケガしないね。」と多いときは7、8人が一緒に拾ってくれます。今では、私が不在の時でも子供たちだけで活動しています。ありがたいことです。ゴミや石ころ等は、校庭や校舎内のあちらこちらにあります。そのことに、まったく気づかない子、気づいても我関せずの子、「先生、落ちてるよ。」と伝えに来る子、自分で拾って所定の場所に捨てに行く子等いろいろです。お子様だったらどういう行動をとるでしょう。ゴミがあったり、人が通る道に危険な石が転がっていたりしたら、またいで通るのではなく、そっと拾える「感性」を育てたいものです。小学生のうちに、こうして感性を育てることが他人のことを自然に考えられる、思いやりある人間に成長させるのではないのでしょうか。

毎朝、本校の生徒指導主事が学校周辺のゴミ(大久保児童公園のゴミも含む)を拾い集めています。残念なことに毎日、拾わなければならない状況です。

いよいよ師走です。交通事故等が頻発する時期ですので、交通安全については、学校でも繰り返し指導していきます。ご家庭でも言葉掛けをお願いいたします。学校は、何よりも子供たちの「命」が最優先、最重要です。どうぞご理解ご協力をお願いいたします。